

指標16-1 FIM利得（運動項目）

代表者：鶴田 真 クオリティマネージャー；林 幸恵
QM委員会委員10名、診療所職員1名

FIM利得

FIMとは

機能的自立度評価表（Functional Independence Measure）の略で、日常生活動作をみる検査法です。運動項目13項目、認知項目5項目で構成されており、各7～1点の7段階で評価します。合計点が高いほど日常生活の自立度が高いことを示します。

FIM利得とは

回復の程度を意味し、この値が高ければ高いほど日常生活動作能力が向上したと言えます。

FIM利得 = 退院時のFIM点数 - 入院時のFIM点数

指標の意義

リハビリテーションのQI指標として、従来よりリハビリ実施単位数やリハビリ介入までの日数をアウトカム評価として効果判定を行っていましたが、リハビリの質を評価する指標はありませんでした。そこで、当院ではリハビリの質に対する効果判定を行う目的で、2019年よりFIM利得の調査を開始しました。

Plan(計画)

- 【2019年】当院の現状を知るため、入院時・退院時のFIMを評価し、リハビリの効果判定を行う
- 【2020年】2019年度の平均値を目標値と設定し、FIM評価を行う

Do(実行)

- FIMを実施し、各病棟チームや会議にて振り返りを行う
- 正確にFIM評価が行えるよう、学習会を毎年実施し、精度向上に努める

Action(改善)

- 【2020年】疾患別の調査項目を見直し、脳梗塞・出血を追加
- 【2021年】3ヶ月毎→1ヶ月後毎の調査に変更

Check(評価)

- 【2019年】FIM利得は全ての疾患で向上
- 【2020年】前年度の平均値を目標値と設定したが、月ごとにバラツキが大きい疾患があり、目標値について再検討が必要



活動内容

調査

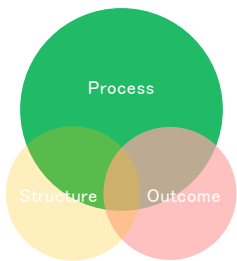
- 1年を通して調査をおこなう

広報

- 院内ニュースや病院ホームページに掲載し、結果を可視化する

効果判定

- FIM利得を用いて、リハビリの効果を客観的に評価する
- 疾患毎の特性を分析し、効果的な介入量などを検討する



指標16-1 FIM利得（運動項目）

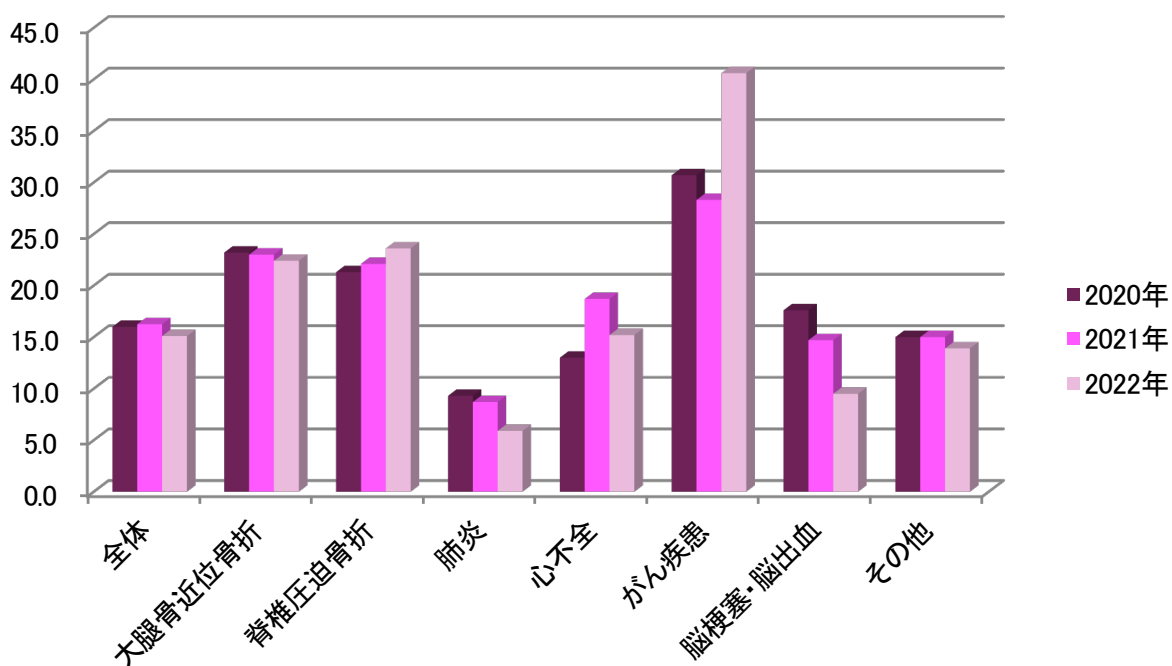
代表者：鶴田 真 クオリティマネージャー：林 幸恵
 QM委員会委員10名、診療所職員1名

FIM利得

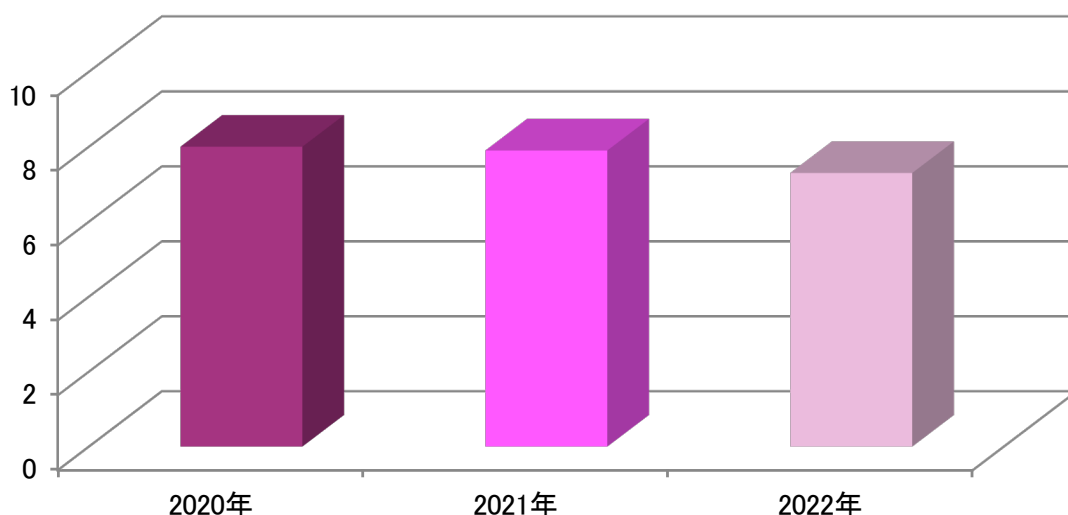
定義

- ①当院に入院しリハビリを実施した患者の運動項目のFIM利得（退院時FIM-入院時FIM）
- ②当院地域包括ケア病棟患者の運動項目のFIM利得（退院時FIM-入棟時FIM）

①全リハビリ実施患者のFIM利得（運動項目のみ）



②地域包括ケア病棟患者のFIM利得（運動項目のみ）



●QM委員会より

FIM利得はすべての疾患で向上しており、リハビリ介入によるADL向上効果が示されました。疾患別では、がんや整形疾患でのFIM利得が高い傾向にありました。地域包括ケア病棟においてもADLが向上していることが示されました。入院早期から質の高いリハビリを提供できるよう、今後も引き続き取り組んでいきたいと思ひます。